



環境報告書 2013



株式会社 駒井ハルテック



REGISTERED ORGANIZATION

NO.0260—ISO 9001

NO.E2066—ISO 14001



橋梁・鉄骨
風力発電設備



CONTENTS

● 会社概要	1
● 経営理念、環境・品質方針	2
● 中期経営計画	3
● 環境マネジメントシステム	6
● 環境マネジメントシステムの軸足変更について	9
● 環境と調和する富津工場	10
● 主要事業所における環境への取組と地域貢献	11
● 社員保養所における環境への取組	11
● 橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組み	14
● 地球温暖化防止	15
● 環境製品への取組（実績紹介）	16



富津工場



和歌山工場



PROFILE



会社概要

商号	株式会社駒井ハルテック KOMAIHALTEC Inc.
資本金	66億1,994万円
株式上場	東京証券取引所 市場第一部
建設業許可	国土交通大臣 許可 (特-23) 第142号 国土交通大臣 許可 (般-23) 第142号
事業内容	橋梁、鉄骨、風力発電設備、他鋼構造物の設計、製作、建設、診断、補修 土木・建築工事の設計・請負、風力発電機による売電事業
認証登録	ISO9001、ISO14001
HP	http://www.komaihaltec.co.jp/



本社・事業所

本社	〒110-8547 東京都台東区上野一丁目19番10号 電話03(3833)5101
本店	〒550-0012 大阪市西区立売堀四丁目2番21号 電話06(4391)0811
札幌営業所	〒060-0001 札幌市中央区北一条西四丁目2番12号 電話011(251)1605
東北営業所	〒980-0804 仙台市青葉区大町一丁目1番8号 電話022(227)8724
名古屋営業所	〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目7番13号 電話052(971)3261
和歌山営業所	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷805番2号 電話0738(65)2841
中国営業所	〒730-0036 広島市中区袋町5番38号 電話082(247)4838
九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目4番17号 電話092(441)3665
富津工場	〒293-0011 千葉県富津市新富33番10号 電話0439(87)7470
和歌山工場	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷805番2号 電話0738(65)1234
大阪事業所	〒555-0041 大阪市西淀川区中島二丁目5番1号 電話06(6475)2111
テクニカルセンター	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台404番1号 電話047(387)0170



関連会社

東北鉄骨橋梁(株)	〒980-0014 宮城県岩沼市下野郷字新閑迎230 電話0223(22)1611
(株)シップス	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台404番1号 電話047(384)5281
(株)プロバンス	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台404番1号 電話047(388)4630



経営理念

『高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する』



環境・品質方針



基本理念

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、建築鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて国民のための社会資本の整備に貢献するとともに、製造、建設に伴うエネルギーの使用や産業廃棄物などに配慮した活動により、企業の社会的責任を果たす。



方針

1. 全従業員参加による環境・品質マネジメントシステムを運用し、継続的改善に取組む。
 - ・ 全部門において環境・品質の目標（目的）を設定し、レビューすることで、マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める。
2. 「顧客満足」をいただける製品の提供とサービス向上に努める。
 - ・ 製品に対する品質管理の徹底を図る。
 - ・ 無事故、無災害を目指す。
3. 環境負荷低減を目指した企業活動を展開する。
 - ・ 環境に配慮した設計・生産・工法への取組みを継続的に行う。
 - ・ 生産性の向上による省エネルギー、省資源に努める。
 - ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）推進を継続的に取組む。
4. コンプライアンスおよび内部統制システムの成熟に努め、責任ある企業活動を展開する。
 - ・ 専門的知識や技術と経験を踏まえ総合的見地から企業活動を推進する。
 - ・ 企業活動に関連する法令、規制、企業倫理などの行動規範を順守し社会的責任を果たす。



中期経営計画



社長挨拶

2011年5月に合併後最初の3ヶ年中期経営計画をスタートさせました。厳しい事業環境を踏まえた課題に従業員一丸となって取り組んだ結果、一定の成果は得られましたが、予想以上の事業環境の急激な変化もあり、残念ながら設定数値目標達成には至りませんでした。

2014年度には、4月から合併後2回目となる新たな3ヵ年の中期経営計画をスタートさせます。前回の取り組みを土台に、最近の事業環境を反映した成長戦略として策定しました。急変する環境にもゆるぎない企業体質づくりに励み、継続的成長につなげるよう取り組みます。

新しい中期経営計画の基本方針は「コア事業を強固にし、技術と品質で企業の成長を図る」です。総合エンジニアリング会社として、革新・成長の精神で新たなステージを目指します。

株式会社 駒井ハルテック
取締役社長 田中 進



「中期経営計画」

平成26年3月17日

各 位

会社名 株式会社 駒井ハルテック
代表者名 取締役社長 田 中 進
(コード番号5915 東証第1部)
問合せ先 執行役員 中村 貴任
(TEL. 03-3833-5101)

「中期経営計画」に関するお知らせ

当社はこのたび平成26年4月をスタートとする3ヵ年の中期経営計画を策定いたしましたのでお知らせいたします。

I. 事業環境と経営課題

当社グループが属する橋梁・鉄骨業界の事業環境は、橋梁では、東北復興事業に期待が寄せられるもの的新設橋梁の発注量は引き続き低水準で推移することが見込まれており、各社が技術提案力・積算精度の向上にしのぎを削る中で熾烈な受注競争が続くものと思われます。これに対し、都市高速の大規模更新をはじめとして数多くの更新時期を迎えた橋梁に対する老朽化対策は、社会インフラにおける喫緊の課題と位置付けられていることから、維持・補修事業への取り組みが今後ますます重要度を増すこととなります。

一方鉄骨は、各種経済対策により景気が回復基調を辿っていることを背景に、企業の設備投資意欲も回復しつつあり、更に、2020年の東京オリンピック開催に向けた施設建設やその波及効果が期待される関連業種の設備投資計画なども加わって首都圏を中心に多数の大型物件の計画が進められております。

しかしながらこれまでの長期の景気低迷により特に建設業界における労働人口は大きく減少しており、技能者の不足が深刻化する中、労務費の高騰や資機材価格の高騰が収益圧迫要因となるとともに、オリンピック後の需要減を見据えた対応も求められております。

このような難しい舵取りが求められる環境のもと、当社グループはこれまで多くの製品を納めてきた実績、培ってきた技術力を最大限に活かし、5年後・10年後も橋梁・鉄骨をコア事業とした総合エンジニアリング会社として成長するべく「中期経営計画」を策定いたしました。



中期経営計画



「中期経営計画」

II. 計画期間

平成26年4月から平成29年3月までの3ヶ年

III. 基本方針

『コア事業を強固にし、技術と品質で企業の成長を図る』

IV. 数値目標（連結）

(連結)		平成28年度 目 標
売上高	橋 梁	16,500
	鉄 骨	23,300
	環 境	1,000
	その他	700
	計	41,500
営業利益		1,000
		2.40%

V. 具体的な施策

1. 橋梁、鉄骨事業の強靭化と収益力の強化

橋梁事業は、補修・保全の比重が高まる中、新設、補修工事の受注に向けた総合評価方式への対応として、受注条件となる技術提案力や積算力の向上と顧客ニーズを把握した工事成績評定点の向上に営業、設計、工場、現場が一体となって取り組み、受注量の確保を図ります。民間関連については、顧客との関係強化で受注をより確実なものとし、また、合成床版などの各種鋼構造物への取組みを強化し受注拡大を目指します。

鉄骨事業は、東京五輪などで高まる建築需要の中、三次元CADやコラムジョイントなど当社保有の技術および鉄骨技術と橋梁技術の両方を活用できる強みを活かした他社との差別化による営業を展開します。また、適正価格、適正工程での受注を行い、安定した生産量を確保することにより収益力の向上を図ります。

当社の2本柱である橋梁と鉄骨の連携を深め、事業環境の変化に対応できる強固な体制を構築し、収益力の強化に取り組みます。

2. 効率的な生産体制の構築

橋梁事業は、和歌山工場は新設橋梁を主体とし、富津工場は大規模更新関連事業などあらゆる鋼構造物を製作する工場としての体制構築を推進し、地理的条件、納期、橋梁形式などの諸条件を踏まえた効率的な製作工場の選定を行います。

鉄骨事業は、富津工場を主要拠点とし、生産性向上のための工場設備や製作方法の改善と工程管理の徹底に加えて、グループ会社の東北鉄骨橋梁㈱と連携し、効率的な生産体制の強化に取り組みます。

3. 補修・保全事業への積極展開

都市高速の大規模更新を視野に入れ、専門部署を設置し、撤去・更新技術の充実を図ります。

また、国土交通省、自治体および民間などの補修・保全工事については、当社が保有する技術「らくらくプラケット」、「アロンブルコート」、「ダブルツインビーム工法」などを通じて、専門部署を中心とした全社的な対応で積極的に取り組みます。



中期経営計画



「中期経営計画」

4. 東北復興、東京五輪関連のインフラ整備への貢献

東北復興関連事業は、東北営業所に設置した復興事業推進室を中心に地元に密着した活動を行い、また、地元のグループ会社である東北鉄骨橋梁㈱とも連携し、高い生産能力を有する企業グループとして東北復興に貢献します。

東京五輪関連事業については、総合エンジニアリング会社としてグループ会社と橋梁、鉄骨の技術力を活かした営業を開拓します。

5. 海外・環境インフラの受注と収益の確保

環境事業は、国内では、大型クレーンや大型輸送車両を必要としない中型風車のメリットを活かせる地域での受注に注力します。海外では、地域特性を考慮した仕様を充実させることで差別化を図り受注を目指します。また、ブレードやナセル部材の効率的な生産体制の構築や海外案件における地元調達などによりコスト削減を図り、中型風車の安定した受注と環境関連製品の販売などで収益を確保します。

海外事業については、ベトナムの駐在員事務所を中心としたアジア地域の情報収集を基に受注を目指します。一方、国内向けのサプライヤー確保として、海外技術者の活用などコスト削減に向けて取り組みます。

6. 人材の育成と活用

人材については、「技術・技能の継承」、「即戦力となる人材」確保のため新卒採用とともに中途採用を行います。また、社内外の研修、人事異動および社内コミュニケーションの活性化などにより、「幅広い視野を持った人材」、「主体的に行動が出来る人材」の育成を図ります。

また、同一事業内に留まらない事業間を跨いだ異動など、社員が達成感を得られるような適正配置を行うことで人材の活用を進めます。

以上

(注) 本資料に記載されている業績予想等の数値は、現在入手している情報及び合理的であると判断した前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。



環境マネジメントシステム



会社年度方針

強い意志と改革で信頼と期待に応える

1. 総合力を高め、受注と収益を確保する。
2. 受注力の強化とコスト競争力の向上により、橋梁及び環境事業は受注の拡大を図り、鉄構事業は適正価格での受注を図る。
3. 強い危機意識を持って改善を行い、コスト削減を図る。
4. コンプライアンス体制の成熟を図る。
5. 安全・品質管理の徹底を図る。
6. 環境・品質マネジメントシステムの効率的な運用と、業務活動を通じて環境の負荷低減に取り組む。



環境年度目標

1. 新体制における環境マネジメントシステムの改訂と定着
2. 全従業員が共有する環境マネジメントシステムに対する意識の定着
3. 継続的3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進
4. 省エネ法に基づく中期計画の継続



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムの取組

・富津工場

環 境 項 目	目 標	具 体 的 施 策	結 果
1. 昨年達成した全事業所の内部監査70点以上を踏まえ、内部監査の内容をステップアップさせた新しい評価表で定着を確認する。	内部監査75点以上	①各フロア・場内各職場で責任者を決め、環境MSの定着を計る。 ②内部監査を通じて環境意識の向上を計る。	概ね前年度と同評価 ※内部監査の評点制度見直しにより比較不可。
2. 環境負荷低減の年度方針に基づき、全従業員一体となった活動の定着を図る。 3Rの活動推進により全社的なコスト削減および環境負荷低減への更なる取組みを行う。	前年度実績の1%以上の削減	①マイナス面 ・廃木屑(廃棄物の削減) ・廃紙・発泡スチロール(廃棄物の削減) ・排ガス・CO2関係燃料(使用量削減) ②プラス面 ・産廃のリサイクル・分別(ゴミ削減) ・リデュース(ゴミの量を減らす) ・不具合の削減 (プロセス改善、フォローアップ) ・電気使用量の削減 ・環境意識の向上 ③グリーン購入法の理解と推進	概ね達成 焼却炉の活用により廃棄物削減、設備機器の見直しにより電力量削減、対操業時間比で省エネ効果はあった。
3. エネルギー使用量、廃棄物等の全事業所のデータ収集を継続し、削減計画（中期計画）に取組む。 同時に定期的に数値確認を行っていく。	エネルギー原単位で年平均1%削減を継続	①今年度の削減目標の策定。 ②エネルギー使用量、排出等のデータ収集を定期的に数値確認する。	未達成 但し、操業時間が前年度より13%増加、使用電力量9.6%増加。



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムの取組

・和歌山工場

環境項目	目標	具体的施策	結果
1. 環境マネジメントシステムの改訂と定着	内部監査評価点 70点以上	①内部監査の有効活用による環境意識の向上。 ②新評価表に於いても前年度(平均76点)以上を目指す。	概ね前年度と同評価 ※内部監査の評点制度見直しにより比較不可。
2. 環境マネジメントシステムに対する意識の定着	開催頻度 2回／年	①意識の向上と定着に向けた講習会(省エネ小委員会を含む)の実施。 ②サイトに施策と成果の発信による意識の向上。	達成 概ね達成
3. 3R活動の継続的実施	産業廃棄物前年度比5%削減	①省エネ小委員会等を通じての3R活動の推進。 ②分別回収の徹底。	概ね達成 産廃排出は前年度と同量。但し、生産量が増大しているので取組効果はあった。
4. 省エネ法に基づく中期計画の継続	エネルギー原単位 で前年度比1%削減	①省エネ小委員会による意識向上。(電力等エネルギー使用量の管理、周知) ②全員の意識向上による節電実施。	未達成 但し、生産量が前年度より約17%増加、使用電力量は約13%増加。

・東京本社

環境項目	目標	具体的施策	結果
1. 東京本社サイト全従業員への環境マネジメントシステムの周知徹底	---	省エネ小委員会を3か月に1回継続開催し、東京本社サイト従業員への周知徹底を図る。	概ね達成
2. 東京本社サイト全従業員の節電に関する意識の定着	エアコン設定温度 夏季 = 28°C 冬季 = 20°C	①設定温度の確認 ②クールビズ、ウォームビズの実施 ③不在時の消灯、OA機器の電源OFF	概ね達成 約1%節電。
3. 東京本社から排出される廃棄物全てを把握し、再利用に向けた見直しを実施（紙、ごみ、その他）	プラスの環境側面の削減項目の設定と数量の把握	分別処理の徹底、再利用を図る。	達成 約11%削減。
4. 東京本社地域コミュニティと連携して環境活動の推進を実施	---	テナントビルとの連携。	概ね達成



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムの取組

・大阪本店 ※2012年10月に大阪支店を統合したので、電気使用量の前年度対比は困難です。

環境項目	目標	具体的施策	結果
1. 全従業員が共有する環境マネジメントシステムに対する意識の定着	省エネ小委員会 毎月開催	①本店の各部署から構成される衛生委員会及び省エネ小委員会を開催し、具体的に協議することにより意識を定着させる。 ②掲示等により、本店の全従業員への周知を図る。	達成 達成
2. 繼続的3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進	電気使用量 前年度比3%削減 ゴミの分別	①不具合の削減(ミコロ-,印刷ミス等) ②電気使用量の削減 ③環境意識の向上 (店内清掃・美化、マイクロープ利用促進等) ④ビル清掃方針に合わせたゴミ分別 ⑤環境製品購入及び再利用の促進 ⑥CO2、廃熱の削減 ⑦廃紙、廃棄物の削減	概ね達成 ※13年10月 大阪市の紙 ゴミの分類 が変更された。
3. 省エネ法に基づく中期計画の継続	エネルギー原単位 で前年度比1% 削減	①従業員個々の意識向上による節電 ②空調使用の削減 (窓やドアの開放、扇風機の併用等)	未達成 1人当たりでは 4.7%削減。

・大阪事業所 ※本年度が新体制初年度となります。（2012年10月、大阪工場閉鎖による）

環境項目	目標	具体的施策	結果
1. 新体制下における大阪事業所サイト全従業員への環境マネジメントシステムの周知徹底と啓発を図る	周知会の開催 (6回/年度)	大阪事業所サイトに所属する各部署の長へ部内に対するシステムの周知徹底と啓発を促すと共に部門にて実施する目標達成度を確認する。	達成
2. 新体制となった大阪事業所サイト全従業員が環境マネジメントシステムに対する共有した意識の定着と向上を図る	内部監査による確認	新体制となった大阪事業所サイト内で共有する環境側面の洗い出しを行い、環境負荷の軽減と低減可能な目標を立案し実施する。 (電気使用量、CO2、廃紙の低減etc)	概ね達成
3. 3Rの活動推進 ・リデュース 環境負荷低減、廃棄物の抑制 ・リユース 再使用に対する意識化を図る ・リサイクル 再生利用品の分別と見える化を図る	日常業務の見直し と活動の意識向上化	①再利用促進化に向けた分別処理の徹底 ②再使用品の共有と有効利用を図る ③コピー紙の有効利用促進 ④再生に向けた古紙回収の徹底	達成評価不能 ※努力は認められるが、比較の基礎となる基準がない。
4. 省エネ法に基づく中期計画の継続 ・エネルギー原単位での削減	新体制のスタートとなる年度初月を初期値とし削減の低減確認	電気使用量低減 (空調設備の設定温度制限使用、休憩時等の室内照明の消灯、不在時のOA機器の電源OFF、クールビズ、ウォームビズの実施etc)	未達成 ※季節変動要素があるため、目標設定に無理があった。



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムの取組

- ・松戸テクニカルセンター

環 境 項 目	目 標	具 体 的 施 策	結 果
1. 新体制における環境マネジメントシステムの改定と定着	内部監査評価点70点以上	改定された内容を評価表に基づき実践し、定着を図る。	概ね前年度と同評価 ※内部監査の評点制度見直しにより比較不可。
2. 全従業員が共有するマネジメントシステムに対する意識の定着	内部監査による確認	①定期的に省エネ小委員会を開催し環境方針を効果的に展開し、維持改善を図る。 ②毎月の電気使用量、紙ゴミ量等を管理し、削減状況を把握し意識を高める。	概ね達成
3. 継続的3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進	日常業務の見直し	①電気、紙の使用量削減 ②古紙、ファイル等の再利用 ③ゴミの分別の徹底	概ね達成
4. 省エネ法に基づく中期計画の継続	エネルギー原単位で年平均1%削減	①設備機器類の省エネ更新計画と削減計画および数値確認の実施 ②環境負荷低減のための地域貢献活動の実施 ③遮光対策として遮光フィルム、グリーンカーテンの採用を検討す	概ね達成 電気使用量は前年度比3.7%節減。 遮光実施。



環境マネジメントシステムの軸足変更について

当社は、これまで公害防止や省エネといった法的規制を受ける分野に軸足をおいて環境マネジメントシステムを推進してきました。その結果、従業員の環境意識が向上し、事業所単位で実施してきたサイト活動も概ね定着してきているところです。

法令要求事項は「ISO14001」の規格要求事項にもなっておりますが、事業者が日常的な業務の中で実施すべき事項として定められているものであって、環境マネジメントシステムを主体として実施・管理するものとは、本質的に違いがあるように感じられます。

そこで、当社としては、2014年度から環境マネジメントシステムの位置付けと役割を見直し、支援組織を含む全ての部署の主たる業務において、「製品提供のための主たる活動の環境側面」に焦点を当て、製品の生産プロセスから発生する“望ましからざる副産物”の低減はもとより、工場や工事現場の省エネ・省資源・コスト削減にどのように貢献できるか、各々が果たすべき役割を大局的視野に立って検討し、持続的に展開できるよう、軸足の変更を推進していきます。

環境品質保証部



環境と調和する富津工場



富津工場：風車1，2号機（奥が2号機）



富津工場：風車2号機

富津市大堀は、かつて「咸臨丸」航海長で數学者でもある幕末の測量・航海技術者、「小野友五郎」が明治14年頃に風車を枝条架製塩ポンプの動力として、先駆けて工業用に使用した“風車ゆかりの地”ですが、当社の富津工場はその隣接地にあります。

我が国において、温室効果ガスを排出しないエネルギーと言えば、かつては水力発電であり原子力発電でしたが、2011年3月に発生した東日本大震災以降見直され、再生可能エネルギーが重要度を増し、風力発電に対しても高い関心と期待が寄せられています。

当社では、日本の気象、地形条件等にあった日本型の風力発電機の開発・生産に力を注いでいるところですが、継続的な研究・開発に資するとともに、2006年9月に1号機を、2014年2月に2号機を建設し、富津工場における橋梁・鉄骨の生産工程の電力源として、再生可能エネルギーを使用しています。

富津工場における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	千葉県富津市新富 駒井ハルテック富津工場敷地内	
用途	工場用電源 および 売電	
風力発電機	1号機	2号機
定格出力	300 KW × 2基	
運転風速	3 ~ 25 m/秒	
稼働開始	2006年9月	2014年2月

2013年度 富津工場における風車による発電量

(単位:KWh)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1号機	47,300	38,480	30,640	28,700	24,970	30,130	47,510	44,490	36,660	45,040	49,480	51,060
2号機											23,080	55,530



主要事業所における環境への取組と地域貢献



和歌山工場

和歌山工場では、毎年（春・秋）恒例となった海岸清掃のボランティアに参加しています。



2013/6/22



2013/9/28

また、和歌山工場は、古紙回収運動（2013/8/03）にも参加して、地域に貢献しています。



段ボール



古 紙



新聞紙



大阪事業所

大阪事業所では、環境省の呼び掛けによる「CO2削減／ライトダウンキャンペーン2013」に参加するとともに、毎年恒例となっている「グリーンカーテン」に取り組んで、電力使用量の削減に貢献しています。



事業所北東側



事業所南西側



主要事業所における環境への取組と地域貢献



松戸テクニカルセンター

松戸テクニカルセンターでは、松戸市が2009年3月に策定した「松戸市減CO₂大作戦（松戸市地球温暖化対策地域推進計画）」に賛同し、2010年12月に「松戸市減CO₂宣言事業所」として登録【AA】、2011年5月には【AAA（最高ランク）】に昇格して、現在も維持しています。

※<<http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/tikyuondanka/sengenjigousyo/index.html>>参照



松戸市では、地球温暖化防止に向けて、環境政策課が様々な取り組みを実施しております。その一環として、多くの事業所が地球温暖化防止等、環境に配慮した取り組みを実施している市を目指し、事業所向け制度「松戸市減CO₂宣言事業所制度」を開発しましたのでご案内致します。

「松戸市減CO₂宣言事業所制度」とは、地球温暖化防止、省エネ・省資源等環境に配慮した取り組みを積極的に実践している事業所を「松戸市減CO₂宣言事業所」として登録し、広く市民の皆様等に紹介することで、その自主的な取り組みを支援しようという制度です。この制度により、事業所における環境に配慮した取り組みが広がり、低炭素社会の実現に大きく寄与することを目指します。

*この制度は、取り組みを実施することを宣言したことに対する評価制度であり、実際の事業活動における環境負荷に対する評価制度ではありません。

1. 対象事業所

松戸市に所在し、事業活動を行っている事業所であって、「減CO₂宣言事業所宣言項目リスト」(P 3～P 4)に掲げた取り組みを行っている、若しくはこれから取り組もうという事業所です。業種は問いません。

2. 申請方法

登録申請書(P 5)に必要事項を記入し、取り組み項目を明記した「減CO₂宣言事業所宣言項目リスト」(P 3～P 4)を添付して松戸市役所 環境政策課に提出してください。申請手数料などは一切かかりません。

*各用紙はこのパンフレットよりコピーするか、本市ホームページよりダウンロードしてご利用ください。

3. 登録

提出された書類の記載事項に漏れがない場合、「減CO₂宣言事業所」として登録します。申請内容を確認し、その状況に応じて「減CO₂ランキング」を決定します。

4. 実績報告

登録事業所のみなさまに、年1回、実績をお伺いするアンケートを実施します。アンケートでは、宣言内容の実施状況や登録内容の変更・見直し、前年度の電気、ガス、水道及び燃料の使用量などをお伺いします。



1

5. 減CO₂ランキング

「減CO₂宣言事業所宣言項目リスト」(P 3～P 4)の行動で、「既に実施している項目」や、「これから実施する項目」に「O」を打けてください。分野ごとに点数が付いているので、「既に実施している項目」の数に点数を乗じてポイントを合計してください。合計ポイントにより減CO₂ランクが決まります

さらに…

宣言項目のほかに、「エコライフサポート宣言」を宣言することにより、1.0ポイント加算されます！宣言内容は申請書の該当欄に記入してください。

【エコライフサポート宣言】

頑張ってエコ活動を行っている市民や事業所を支援するような、独自の取り組みを宣言することができます。「エコライフサポート宣言」と言います。例えば・・・
○エコバッグを持ってくれたお客様にはポイント2倍サービスします！
○マイ箸を持ってくれたお客様にはエコアクション21などの各種認証制度を取得している飲食店に対して、優遇措置をとります！
などなど、環境への取り組みを実践している方々をみんなでええ、エコライフを広げましょう！

実施項目の合計ポイント
40点まで

減CO₂
Aランク

実施項目の合計ポイント
41点から100点まで

減CO₂
AAランク

実施項目の合計ポイント
101点以上

減CO₂
AAAランク



6. 減CO₂宣言事業所として登録される…

- 本市ホームページなどにより「松戸市減CO₂宣言事業所」として積極的に広報しますので、環境に取り組む事業所として広くPRすることができます。
- 減CO₂宣言事業所マークを利用できます。名刺やチラシ等にご活用ください。
- 「登録証」及び「登録ステッカー」を交付します。
- 自社の環境への取り組みを発表する場を提供します。
- 宣言項目を実施することにより、コスト削減が期待できます。
- エコアクション21やエコステージなどの各種環境マネジメントシステムを取得する支援をします。



2



社員保養所における環境への取組



旅する渡り蝶“アサギマダラ”と“フジバカマ”

“アサギマダラ”は、春は南から北へ、秋には北から南へ旅する蝶で、私の主人は“フジバカマ”に訪花する“アサギマダラ”的調査を以前からしておりますので、ここ山科荘は比叡山のふもとに在って“アサギマダラ”が通過する場所であるとの考え方から、信州で植栽している方から譲り受け一昨年から山科荘の前庭と川原前で“フジバカマ”植栽を始めました。

“フジバカマ”は、かつては本州以西の河川の草原などで見られる植物でしたが、河川改修などにより生息適地を追われて個体数が激減しました。数年前に京都府大山崎町の桂川中州で見つかり、現在は「希少植物の京都府レッドデータカテゴリ絶滅寸前種」として注目を集めております。

現在、京都市右京区水尾に一か所“フジバカマ”を栽培しているところがあり、多くの見物者が訪れていることがあります。交通の便が悪いなどの難点もあるようです。

“フジバカマ”は開花期間が長く9月中旬から10月上旬まで楽しませてくれるのですが、山科荘前の“フジバカマ”は、昨年はあまり開花しませんでしたけれど、今年は花がかなり咲きましたので“フジバカマ”的薰りに道行く人々が立ち止まって花を愛でていただいております。

昨年来の栽培の様子を見ておられた毘沙門堂様からは是非植栽して欲しいとの要請がありましたので、山科荘の前庭と川原前を来年はもっと拡大し、フジバカマを植栽するとともに毘沙門堂様の境内にも植栽する予定で現在挿し木を作成して準備しておりますので、来年は今年以上に“フジバカマ”が咲き乱れることと存じます。

また、渡りチョウである“アサギマダラ”は今年たくさん訪花しており、今週も訪花していますので、朝から撮影するアマチュアカメラマンを何人か見かけました。

来年もっとたくさんの花が咲けば、一日何百という数の蝶が訪れるでしょうから、素晴らしい蝶の円舞が見られるだろうと今から楽しみしております。

2013年10月23日

京都市山科区御陵平林（毘沙門堂前）

(社員保養所) 山科荘 管理人



山科荘でのマーキング



橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組み



環境パトロール

建設現場では、都心部、市街地はもちろん山奥、河川付近、海岸付近など自然と共に存する場所での作業が多いことから、環境保全に対しては細心の注意を払って作業を進めています。

当社では、2012年度より、環境保全の本質を再認識するため、建設現場関係者一同と連携し、橋梁架設現場を中心に環境パトロールを実施しています。

2013年度は、建設現場における作業環境（騒音および振動、水質汚濁、産業廃棄物、現場特有の環境侧面等）に重点を置き、全国13現場の環境パトロールを実施しました。



1. 騒音・振動防止活動



建設現場の騒音や振動の低減・防止を図るため、低振動・低騒音の建設機器、重機などを選定し、現場周辺の状況により防音パネル、シート等も活用しています。

2. 水質汚濁防止

海、河川付近の橋梁建設現場では、海、河川等の用水路の汚染を防止するため、建設機器、重機などの日常点検・整備を実施し、油漏れ等による海、河川汚濁の防止を心掛けています。また、緊急時に備えてオイル吸着マット等を常備し、作業者に周知しています。コンクリート打設の際出る排水に関しては、ろ過もしくはコンクリート業者に持ち帰って処理を行っています。

3. 産業廃棄物の分別作業



建設現場より発生する廃棄物は分別を徹底するよう周知し、廃棄物ごとにゴミ箱を設置し廃棄量の削減と、リサイクルに努めています。

4. 粉塵（砂埃）対策

粉塵等が懸念される現場では、砂埃がたたないよう粉塵防止剤（フライネットR）を散布して粉塵（砂埃）の対策を施しています。

5. 建設現場周辺のゴミ拾い、草刈を積極的に実施し、近隣地域の環境美化に貢献しています。

建設現場では、関係者に清掃・美化等の周知徹底を図っていますが、山奥の現場等では一般車両からゴミの投げ捨てがあり、河川付近の現場では、川上よりゴミが流れています。市街地では一般歩行者からのタバコのポイ捨て等が後を絶たないため、イタチゴッコになっているのが悲しい現実です。

6. CO₂排出量低減

エネルギー効率に優れたハイブリットカー・建設車両・重機などを選定し、停車時のアイドリングストップの励行、エコドライブの促進を行っており、輸送車両についてもアイドリングストップを指導しています。

また、近くへの移動等には動力車両を使わずに自転車、公共交通機関等を積極的に利用するように心掛けています。



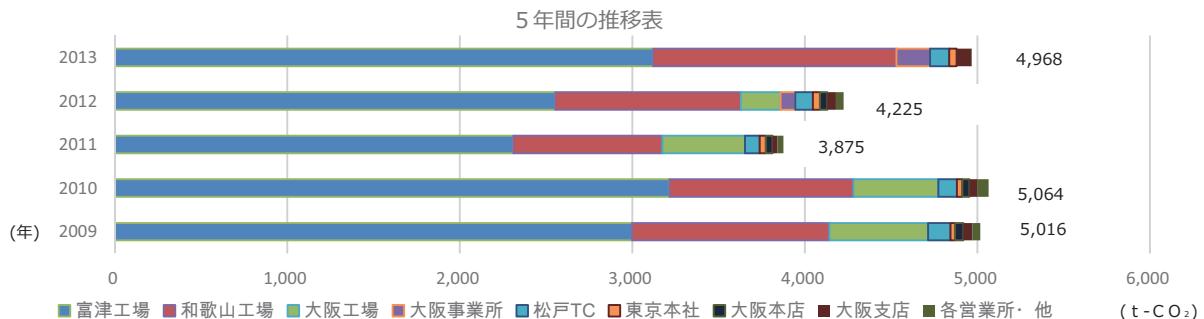
地球温暖化防止

当社では地球温暖化の原因となるCO2排出量の削減のため、省エネルギー活動に積極的に取組んでいます。製造工程では、ピーク電力を抑制する工程などさまざまな方法での効率改善化、生産設備を導入する際には、消費電力量を考慮する省エネルギー活動を推進することにより、CO2排出量の削減活動を行っています。

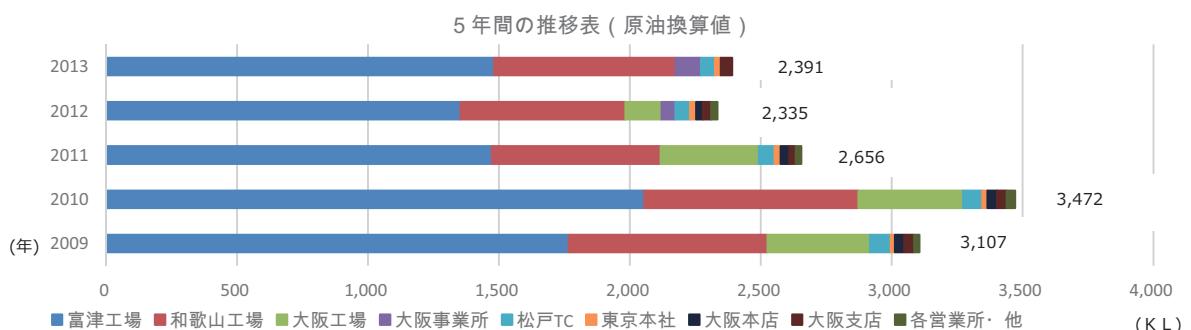
注) 大阪本店は2012年10月に支店と統合しましたが、データの継続性を考慮し旧名称を使用しています。



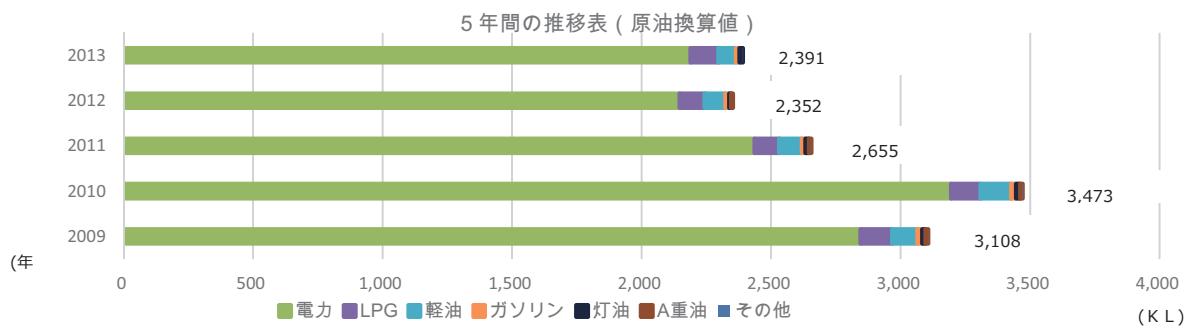
CO2排出量の推移



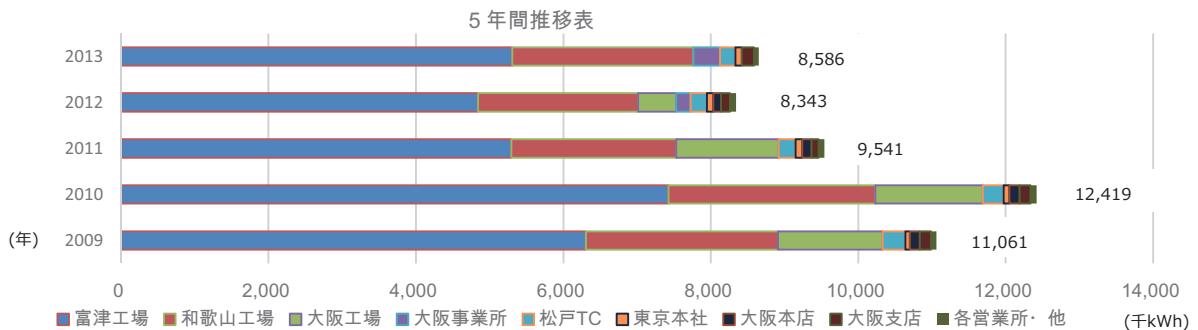
エネルギー使用量の推移



エネルギーの種類推移



電力使用量の推移





環境製品への取組（実績紹介）

駒井ハリテックでは、開発する製品に対し環境負荷低減を追求しエコプロダクト（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。



風力発電システム

日本の地形や気象にあつた「日本の風力発電」を提案します。



福島県再生可能エネルギー研究開発拠点風力発電設備設置その他工事

所在地	福島県郡山市 福島県再生可能エネルギー研究開発拠点
発注者	独立行政法人 産業技術総合研究所
風車形式	KWT300 (定格出力 300kW)
主要寸法	ローター直径 33m, ローター中心高さ 41.5m



風力・太陽光発電マイクロハイブリッド

夜間照明（外灯）などの電源として使われています。



KH micro-HYBRID (風力・太陽光発電マイクロハイブリッド)

風力発電機	サボニウス式風車, 定格出力 50W, 定格回転数 500rpm
太陽光発電 システム	多結晶シリコンパネル, 公称最大動作電力130W
インバータ	定格入力電圧 12V DC, 定格出力電圧 100V AC
バッテリー	サイクルサービス用鉛蓄電池, 無風無日照条件で7日間使用を想定



太陽光発電設備

太陽光発電設備のエンジニアリング、架台の設計・製作・基礎工事・据付を実施しています。



熊谷太陽光発電所建設工事

所在地	埼玉県熊谷市
発注者	栗原工業 株式会社
形 式	ハイポール型太陽光発電設備 (定格容量 2.4 MW)

撮影：イーテクノス株式会社



環境製品への取組（実績紹介）



パイプスラブ（鋼・コンクリート合成床版）

パイプスラブは、リブ(孔明き鋼板)とパイプ(構造用鋼管)とで構成された鋼板パネルがコンクリートと一体化することにより、大きな耐荷力と高い耐久性を実現した「鋼・コンクリート合成床版」です。

これにより、「安(安全、安心)」「新(新技術、新発想)」「短(短工期)」で建設コストの縮減が可能になります。

※パイプスラブは、片山ストラテック㈱、(株) IHI インフラシステムおよび当社の3社による共同開発商品です。



らくらくブラケット（落橋防止装置ブラケット）

橋梁の落橋防止装置では、下部構造物（橋台、橋脚）の状況を現地調査し、さらにアンカーボルトの施工では既設鉄筋との干渉を避けるため、ブラケットの設計・施工では多大な費用負担と細心の注意が求められ、ブラケットの再製作や改造が必要となることもあります。

「らくらくブラケット」は、施工者の立場から、建設コストの削減、品質の向上、工期短縮を目指して開発された「工場製品」です。



兵庫県内でPC桁に施工した事例



アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法

「アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法」は、アクリルゴムを用いてコンクリート表面の剥落・劣化を防止する「コンクリート表面保護工法」で以下の特長があります。

- 「環境に優しい」
有機溶剤を一切含まず、オール水系材料としました。
- 「コンクリートに優しい」
水蒸気透過性を従来以上に高め、コンクリート内部に残留している水分を発散できるようにしました。
- 「メンテナンスが容易」
既設塗面を剥ぎ取ることなく、重ね塗りが可能です。
- 「安価である」
塗り重ねを4回に減らし、安価な施工を実現しました。



秋田県内で橋脚天端と側面に施工した事例

※ 「アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法」は、東亞合成㈱と当社との共同開発商品です。

